

お花見レポート

生活倶楽部ウィズ南片江
2008年4月1日、早生田公園にて

「桜いよいよ咲いたね」「うん、きれいだね」「ちょっと寒いね」。「お酒、美味しいね」「いける口ね」「そうでもないけど...」

「豚汁のお代り、あるよ!」。

さくらは七分咲きか。青い大きな空にちょっと若い色のさくらが映える。柔らかな春の日差しを受けたここ早生田公園は生活倶楽部ウィズ南片江から道路一つを隔てたところにある。

今年の桜の開花日は例年より早いと予想されていたが、3月中旬頃から季節は足踏みをし、結局例年通りの開花となった。4月初旬、福岡の街は一斉に花の季節を迎えた。

今日は、生活倶楽部ウィズ南片江の恒例の早生田公園でのお花見です。冬で縮こまった体も春の日差しを受けて、おそるお

そる伸ばし始める花見の宴。「それでは皆さん 出納(すいどう)ツギさんの大正琴の演奏が始まりますよ〜」

90歳は越えている出納さんの指は、ちょっと揺れながらも春の曲を奏でる。それに合わせて手拍子を打ちながら歌う。音程はずれる。歌詞も時々まちがえる時もあるようだ。が、皆さんお構いなし。元気で大声を出す。実にいい気分だ。

小高い丘の早生田公園に時々春特有の突風が舞い上がる。お花見弁当をしっかりといただき大声を出して歌い、笑っているうちにすっかり体と心の筋肉がほぐれてゆく。

春を迎えたというなんともいえない喜びを感じる2008年のお花見です。

2008年ウィズグループの各施設では以下の日程でお花見を開催しました。

生活倶楽部ウィズ長丘	4月11日	新市楽池にて
生活倶楽部ウィズ南片江	3月29日、31日、4月1日	早苗田公園、片江中学校にて
生活倶楽部ウィズ長尾	4月9日、10日、11日	お弁当持参で桜公園へ
グループホームウィズライフ西新	4月6日	城西公園にて
グループホームウィズライフ伊丹	4月3日、4日	緑ヶ丘公園にて
グループホームウィズライフ別府	4月5日	別府3丁目「別府公園」にて
グループホームウィズライフ新宮	4月1日	1区公民館にて
グループホームウィズライフ奈良屋	4月2日	冷泉公園にて



大正琴を演奏する出納さん

救命講習会開催

グループホームウィズライフ別府 防災委員 古川友恵

解っているつもりでは役にたたない。解っていないなくてはならないのが「救命ノウハウ」。救命手段は、使っていないと忘れやすく、新しい手法もマスターする必要がある。あては致しませんが、いざという時に慌てずに対処できるためには、たえず講習会で研鑽を重ねること。生活を預かる者は「安心・安全」に対して謙虚であらねばならない、と肝に銘じ救命講習会に参加。

何度も何度も繰り返し訓練をし、スムーズな対処方法と連携プレイ。さらにスタッフが日ごろ抱えている細かな疑問を救命隊員に訊ねたり、相談したりしました。これで万全ということではないのですが、ノウハウを得たことは介護する者の安心材料になります。最後に修了証を戴きました。今回参加出来なかったスタッフへ、今回取得したノウハウを伝達していくことが大切だと感じ取った講習会でした。



マウストゥマウスの講習



AEDを使用

3月31日(月)福岡市消防局 城南消防署及び飯倉出長所の救命隊3名の指導の下にグループホームウィズライフ別府一階に、グループホームウィズライフ新宮、奈良屋、西新と別府の各スタッフ集合。さらにグループホームウィズライフ別府のご入居者、地域、ご家族の方々も参加いただく。

今回のコンセプトは「あなたの大切な人救えますか!」(いざというときの応急手当)です。

- 心肺蘇生法が必要かどうかの判断とその手順
- 知らない人へのマウストゥマウスの方法
- 救急車が来るまでの対処方法
- AEDの使用法とその効果

*赤いバッグのAEDを見たことはあるが、使用した経験者はほとんどいませんでした。

AEDの使い方を初めて講習会で体験し訓練をしました。AEDから流れ出るボイス指示を冷静に聞き、現場を想像しながら行いました。初めてであっても、落ち着いていればしっかりできると思いました。

そして、やってはいけないこと、(意識のある人とない人への処置の違い)などなど。知らなかったことがキチンと学べて嬉しかったです。

転んでからの杖 役に立った 「シニア向け傷害保険」の事例

総務部

起きて欲しくないが、起きてしまうのが事故。

過日グループホームのご入居者が施設内のご本人居室にて、ベッドから転落、左大腿骨を骨折、26日間の入院治療を余儀なくされました。

今回の事故は施設運営側には過失を問われない、いわば不慮の事故ともいえます。

幸い、ご入居者は今年始めより導入された「シニア向け傷害保険」に加入されておりまして。入院費用はこの保険が適用され、痛みやダメージの治療に専念することができました。

この事故に学び、これからもこのような事故に対処するために、「シニア向け傷害保険」をご案内させていただくつもりです。

一つ屋根の下で暮らす仲間でも、ご入居者とそうでない者とは基本的に立場が異なります。

「シニア向け傷害保険」の説明をしっかりとさせていただくことにより、提供するケアの範囲をあいまいにせず、立場の相違を明確にしておくことは大切です。起きて欲しくないが、起きてしまうのが事故。いわば転んでからの先も頼りになる杖を用意しておくことにより、負の局面を最小限にとどめ、一つ屋根の下でお互いが最善を尽くしつつ豊かな時間を送りたいと願っています。

退院から保険支払いまでの概略

骨折により約1ヶ月の入院

4月10日 退院

4月18日 保険請求手続き

事務手続き日数
4日間

4月22日 保険金支払い完了

ご加入コース:A1

保険金受取り金額 89万円

内訳

基本保険金 10,000円

部位症状別保険金 60,000×13倍(大腿骨骨折)
=780,000円

骨折時生活支援一時金 100,000円



ウィズグループの

「環境」と「地域」への取り組みとして

水「さららいと」を宅配する

事業を始めました。

是非パンフレットをご覧ください。



株式会社西日本介護サービス「ウィズグループ」と、皆様をつなぐふれあい情報誌

WITH通信

No.17 6月
2008年

「WITH」とは「Welfare Innovation Try Home」より、「一緒にあって、共に暮らすの革新につとめ続ける開発拠点」という思いを込めています。

介護付有料老人ホーム

生活倶楽部ウィズ長丘
生活倶楽部ウィズ南片江
生活倶楽部ウィズ長尾

グループホーム

グループホームウィズライフ西新
グループホームウィズライフ伊丹
グループホームウィズライフ別府
グループホームウィズライフ新宮
グループホームウィズライフ奈良屋

通所介護事業所

デイサービスウィズランド博多

在宅介護支援事業所

ウィズケアプランサービス
ウィズケアプランサービス大阪

訪問介護事業所

訪問介護ウィズステーション
訪問介護ウィズステーション大阪
訪問介護ウィズステーション唐戸町

生活支援サービス

ウィズサポートサービス

福祉用具レンタル、販売

ウィズスマイルプラザ
ウィズスマイルプラザ唐戸町

福祉、介護スタッフ育成

ウィズインターンスクール
老人福祉センター
福岡市立老人福祉センター東西園
福岡市立老人福祉センター若久園

発行 株式会社西日本介護サービス 福岡市中央区大名2-4-30西鉄赤坂ビル10F Tel.092-712-0306 http://www.ncs-net.org/

2008ふれあいフェスタに 「グループホームウィズライフ新宮」初参加

時:2008年6月1日

場所:糟屋郡新宮町社会福祉センター
同新宮町ボランティアセンター

【実行委員:社会福祉法人 新宮町社会福祉協議会】

少子・高齢化、一人暮らし世帯、核家族化など、生活形態の多様化にともない生活基盤である地域活動や人と人との関わり合いが希薄になりがちな地域問題は新宮町も例外ではない。友人を作るきっかけもなく、孤立化の中での子育て、地域活動に参加する人も少ない。さらには高齢者の寝たきりや閉じこもりなどの孤立は認知症の原因の一つと考えられる。このような現状を何とかせねばと、地域の住民である高齢者、障害のある人、子育て中の親子とボランティアが一緒になって、仲間づくりや健康づくり、助け合える環境をつくろうと「地域サロン」というものを設けました。

新宮町社会福祉協議会は、この地域サロンの活動を中心に、住民同士の交流を促し、助け合える環境を作り、安心して暮らせる地域づくりを目的としています。「ふれあいフェスタ」はいわば日頃の活動の発表を通じて地域の人々との交流、理解とふれあいの場です。



フェルト素材のオリジナルブローチ(ご入居者の作品)



初夏の日差しの下での餅つき

- フェスタは大きく4つの項目があります。
- ハンディキャップになったらどうなるかの疑似体験、点字とは、機械とは、「体験学習」
 - 体力測定から福祉全般についての「相談コーナー」
 - オリジナル作品や安全推奨商品の「物販」
 - うどん、カレー、フランクフルト、飲み物など「軽食コーナー」

グループホームウィズライフ新宮は今年初めての参加でした。昨年までは、入居者の方々や見学をしていましたが、今年はフェスタ参加に向けてオリジナル作品制作に励みました。

見学とオリジナル作品の販売、それと当施設スタッフ若衆による餅つきで参加しました。餅はとても人気で、売れまくり、つくそばから売れてしまい、折からの初夏の日差しの中、若衆といえど少々バテ気味。存在感ある嬉しい汗を流した一日でした。

環境対談

松山政司参議院環境委員長vs 藤原社長

2008年5月26日
屋上ガーデン「SKY STATION」にて

藤原

今日はお忙しいところお越しいただきありがとうございます。早速ですが、今までも社内の各事業所や施設において節水を始め、エアコン温度管理等の省エネ対策に取り組まさせて頂きましたが、弊社も6月に第9期を迎えることとなり、一つの節目として先日、企業・団体として「チーム・マイナス6%」に登録させていただきました。そして、今日のこの場所(対談)の屋上ガーデンに使用されている土は、既存の建物でも緑化できる特殊な軽い土で、弊社の入っている本社オフィスのお隣という緑で弊社の一部施設建物にも屋上緑化として導入させて頂いている関係もありこの場所に対談をお願いした訳です。そこで早速ですが、7月に環境問題を話し合うG8サミットが洞爺湖で開催されることに先駆けて、環境委員長をされている松山先生に、現在の日本の温暖化対策の現状と併せて、我々小さな企業の効果的な温暖化対策について取り組めることがあるかどうかなどアドバイスを含めてお聞かせ頂けたらと思いますので、本日はよろしくお願致します。



松山議員(左)と 藤原社長(右)

松山議員

私も2007年から環境委員長を拝任しました。地球上で極めて深刻になっている環境問題について、友人でもあり長い付き合いをさせて頂いている藤原社長が環境に、直接企業としてまた個人として、しっかり取り組んでいただいていることに敬意をいざとにも深く思います。今年は特にG8が日本で開催されることで、先日、まさに昨日一日に環境大臣のG8会合があったばかりで、いいタイミングであ

ります。1997年、京都議定書COP3が開催されてそこで決定したのですけれど、まさにその約束ごとが今年から、12年まで(2008年から5年間)続くというなかで、必死の思いで1990年比で6%、もうすでに2006年では1990年からすでに6.2%上まわまっているわけで、そういう意味では12.2%下げなくてはならない。このような状況のなかで森林吸収が3.8、京都メカニズムで1.6確保できるということなので、それを差し引けば6.8。今から6.8%を5年間を続けなければならないという状況です。まさに一人一人個人が意識を変えて行動する。また企業が実践をどうおこなっていただけるか、にかかっていると思っています。7月7日から3日間、今回のG8サミットの中でどう合意できるかが極めて重要な現時点の状況です。

藤原

環境問題というのは非常に幅が広く何処から手を付けられればいいのかと悩みますが、私どもの社内でも設備管理委員会を設け、冷暖房の温度の設定など職員でチェックできるような体制を整えたり、更には様々な省エネにつながる商品の導入などを推進しています。今後はウィズグループ全体としてもエコ事業に関わりたく思い、たとえばペットボトルを沢山使うような飲料水になるべくリサイクルよりもリユース、つまり繰り返し使えるような飲料水の提供事業などに参画したいと思っています。

松山議員

確かに、国民運動的に展開してゆかなければならないチーム・マイナス6%の時期にはいってきています。1990年からこんにちまでCO2が最も増えたのが家庭が3割、オフィスが4割(39.0%)ですね。ここが急激に増えている。産業界、製造業などは逆にマイナスで、下がってきています。そういった意味からも一番力をいれてゆかなければならないのがオフィスビル関係の省エネと、家庭の問題をどう取り組んでゆか、ここ2点を下げていかないとまず6%というのは厳しい状況になって行くと思われる。チーム・マイナス6%は個人では220万人、団体では2万団体が登録いただいています。さらに増やしていかなければならない。細かなことですけれど藤原社長も取り組んでいただいている冷暖房の温度を調整するとか、まさにペットボトルをリユースのミネラルウォーターにしていただけのこと、小さなことですけどそういう積み重ねがまさに大事なことだと思っています。実践活動はさきわめて大事だと思っています。

藤原

なるほど、製造業よりもオフィスとか家庭ですか。やはり一人ひとりの行動が大事ということですね。

松山議員

参考までに、世界全体のCO2の排出量の中でアメリカが21.4%、中国は18.8%、アメリカと中国で世界の約40%のCO2の排出をしているのが現状です。1997年の京都議定書というのはアメリカも中国も参加をしていない状況でスタートしておりますので、2008年から2012年までは、がんばっても世界全体の約3割位の地域でしか対象になっていない。このような意味でも、今度のG8では両国の参加があつての合意はさきわめて大事です。地球上全体がこの運動に参加していかなければCO2は減らないというのが現状です。

それから日本のここ数十年、1990年以降の日本の技術力の向上にはかなりすごいものがあり、世界ではトップレベルの軽炭素経済を実現しています。たとえば電力、火力発電で1kw作るのに必要なエネルギーで、日本が使用しているエネルギーを100とすれば中国は129、フランスは123、アメリカは117とこれ位のエネルギー消費効率の達成率です。セメントの中間製品を1t作るとすれば日本が100に対してロシアは178、アメリカは177とこれほど異なる。鋼の精錬について、日本を100として、南米は200、北米は154と、日本の製造業の効率というのは遥かに品質が高いといえます。もう一点ね、日本のGDP当たりのエネルギー消費水準に世界全体がなった場合、エネルギーの消費率はなんと1/3になる。世界全体が日本並みのGDP当たりのCO2排出水準となった場合はCO2も68%減る。これほどに日本の技術は進んでいることを理解した上でやっていかなくてはならないと思っています。

藤原

日本の技術を各国と共有してゆけば、ある程度の効果的な対策ができると言うことですね。

松山議員

そうですね。まさに、そういったことを加味した排出の取引というのを満たしていかなければならないので、今セクター別などを提案しています。技術力も格差も加味したうえで世界中のCO2を減じていかないと、日本もデメリットがありますので、ただだんに数字だけでゆくのでもなく、これら全体を考える重要な時期だと思います。

藤原

なるほど、今日は日本の環境対策に対する技術水準の高さ等も再認識しましたが、オフィスや家庭での省エネ対策が進んでないということを知りました。我々もできることから家庭で企業で取り組んで行きたいと思っています。

松山議員

最後に今後の国際的な世界の取り決めがどうなっていくかということをお話したいと思います。5月24日、25日に、G8関係大臣会合が行われた。7月7日から3日間、洞爺湖サミットがあります。今年10月にCOP14がポーランドであります。これは洞爺湖サミットの合意を受けて、議論がされます。来年(2009)イタリアでサミットがあります。2009年末COP15がデンマークであります。ここで京都以来の2013年以降世界中のCO2をどうするかという取り決めを最終的に決めます。アメリカの大統領が今年代わります。いろいろな世界の動きのなかで、2009年末の決定がどうなるかという意味では、今回のG8は環境サミットと言われるくらい、洞爺湖サミットは極めて重要な状況にあります。日本の政府、福田総理の動きに意識をもちいただき、日本全体が絶対6%をこの5年間で達成するのだと、国民一人一人が意識を変えてゆくことが、世界に向けてこの地球を守って行くために大変重要な実践活動に繋がって行くと思います。私も環境というテーマをこれからも政治家としても進めてゆきたいと

決意を新たにしております。どうもありがとうございます。

藤原

ぜひ洞爺湖サミットが成功するよう祈っております。今日はお忙しい中、ありがとうございました。

追記

対談のあと、背振山系の望める屋上ガーデン[SKY STATION]でランチとしてお弁当を召し上がっていただきました。松山先生は小紋柄の袋に入った組み立て式のMy箸をセカンドバックからお出しになり召し上がっておられました。「たかが一箸、されど一箸」。小さいこと、できることから実践する姿勢を実践しておられました。



箸を組み立てる松山議員

松山政司(まさじ)議員と藤原博章は(社)福岡青年会議所(以下、福岡JC)や(社)日本青年会議所(以下、日本JC)で10年以上活動を共にして、特に1995年~1998年には福岡市内145小学校を対象にした「子供達におもいやり心を育む事業」を当時福岡JC松山理事長とともに担当常任理事として取り組んだり、日本JCでは松山会頭に就任するまでに、アジアを中心とした国々(タイ・ベトナム・フィリピンなど)でのボランティア活動や、アジア・アメリカ・ヨーロッパなどの国々で活動する国際青年会議所JCI主催のコンファレンスに参加して国を超えた「Cの仲間をつくり、まさに世界中を共に駆け巡った親友です。

松山 政司(マツヤマ マサジ)参議院議員プロフィール

- 1996年 福岡青年会議所理事長
- 1999年 日本青年会議所会頭
- 2001年 参議院議員初当選
- 2006年 経済産業大臣政務官

松山政司参議院環境委員長

<http://www.matsuyama-masaji.org/index.htm>
「SKY STATION」
<http://www.skystation.jp/>

どんたく見物

グループホームウィズライフ奈良屋 介護主任 椎木繁嗣

5月3日(土)・4日(日)に福岡市民の祭り<第47回博多どんたく港まつり>が開催されました。

奈良屋地区の民生児童委員さんよりお誘いの声をかけていただき、5月3日(土)にご入居者と共に奈良屋地区のどんたく見物に行きました。どんたくと言えば雨...ですが、今年は天候にも恵まれ、雲ひとつない快晴!!そして、どんたくの語源は昔さんご存知の通り、オランダ語で休日を意味する【ソントーク】「市民が休日を楽しむ」というスタイルの祭りです。奈良屋町の道路の一角に演舞台が設けられ、奈良屋小学校の子もたちの踊りや太鼓の演奏など、様々な演舞が行われ大いに賑わいました。ご入居者の多くが以前博多地区周辺に住んでおられ、どんたくに参加、もしくは見物に行っていたということもあり、当時を思い出しながら目を輝かせ見入っていました。もちろん!しゃもじも叩きました!(笑)

最後には『博多どんたく(どんたくばやし)』を会場にいる全員で唄い、奈良屋町の地域力というものを肌で感じる事ができました。人情味あふれたここ奈良屋町で今後も地域の一員として共に歩んでいきたいと、改めて感じる機会となりました。受身ではなく、こちらから地域に向かい、知ってもらいための活動が大事であるということも今回痛感しました。

今後も地域行事には積極的に参加していきたいと思っています。

生活倶楽部ウィズ南片江、今年の「春の宴」は盛況でした。

◆開催日/5月4日(日曜日) ◆会場/生活倶楽部ウィズ南片江 玄関前広場

折から、博多どんたく2日目を迎えたこの日、パレードはあるは、街の角っこや市中のいたる所に設けられた特設ステージで踊る人はいるは、唄っている人はいるは、しゃもじをたたく音、その賑やかにして陽気で、かつ奇抜なこと。

ここ城南区の小高い丘にある生活倶楽部ウィズ南片江の玄関前広場での催し「春の宴」のバザーは博多どんたくにも



焼きそば、たこ焼きの薫りにつつまれて



奈良屋町が踊る

【博多どんたく】は、わが国の古い民族行事「博多松ばやし」(国無形民俗文化財選択)を起源としています。また、「どんたく」の名称は、明治時代に一時禁止されていた「松ばやし」を復活させる際に呼ばれ始めたもので、オランダ語Zondag(休日)がその語源とされています。

戦後の昭和21年5月、「松ばやし」と「どんたく」が8年ぶりに復活しました。肩衣を紙で作し、馬はハリボテを首から胸に下げ、三味線、太鼓など大災を免れたところから借り集めて、「博多どんたく」のおはやしを互隣の町に響かせながら練り歩いたことが、復興へ大きな勇気を与えたといわれています。

そして昭和37年、「どんたく」は、市民総参加の「福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」となり、今回で47回を数えます。現在では観客数も2日間200万人を数える全国でも有数の祭りへ発展いたしました。

(第47回福岡市民のまつり 博多どんたく港まつり パンフレットより転載)



振りたての筍です

負けずとも劣らずの熱気と歓声で大いに盛り上がり、

「春の宴」今年で5回目を迎えました。この日、湿度は一気に上昇し、春を通り越しまさに夏、日よけのパラソルや帽子の白がまぶしい。ご利用者のご家族はもとより、近所の子供たちとその父兄、さらには市内のウィズグループ施設からも、タクシーを使ってぞくぞく参上。おでん、たこ焼き、焼きそばの煙とにおいが充満する、射的が的に当たったのか元気な歓声と拍手が初夏の空に響く。圧巻は今朝、竹やぶから振り起こした孟宗の筍が大鍋2つにつくつく音をたて茹でられてる。茹で上がった筍は酢味噌をつけて頂く。このような野趣を味わうことはなんとぜいたくなことだろう。手作りのクッキーや大福の直売もバザーも例年のごとく好評。若葉とツツジの満開の中で、みなさんの笑顔が一段と大きく感じられた五月晴れの日でした。